



昨年、一昨年に続く、薄いアルミニウム板で制作する実験的な椅子のデザイン研究である。

実験的と書いたのは、薄いアルミニウム板で、いかに今までにない座り心地の椅子をつくるかということ、そしてそれがアルミニウムの特性を生かした構造になっているかという意味での実験性である。

アルミニウムは金属の中でも軽く（鉄の約3分の1の重さ）、耐久性があり、溶解することでリサイクル出来る素材である。また、厚みや形状によっては、かなりの強度を確保できる。一連の実験的な椅子の構造としては、最低でも100kgの荷重が掛かっても壊れないことを条件としている。

一作目の「Shades of Michelangelo」では、座面と背板を4mm厚の一枚のアルミニウム板から切出し折曲げ、背板の部分だけを特殊な三次曲面加工をすることで、人間の体にいかにフィットさせるかという実験であった。また、木製の脚と接合させることで構造的にも変わったものになった。

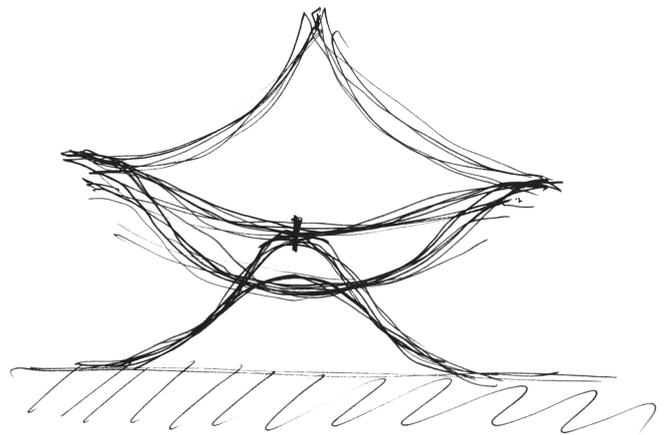
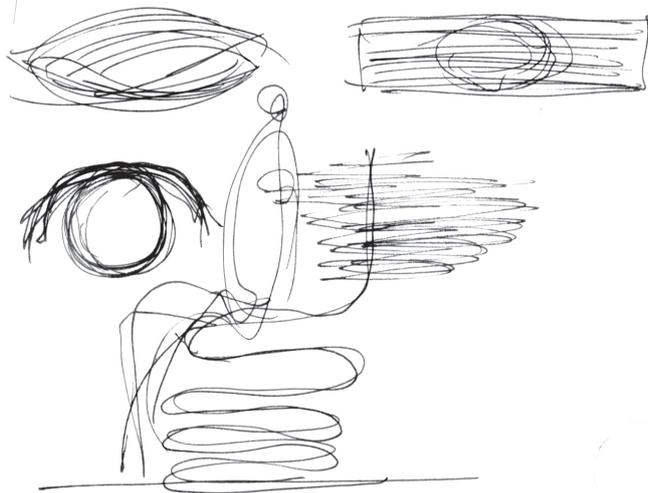
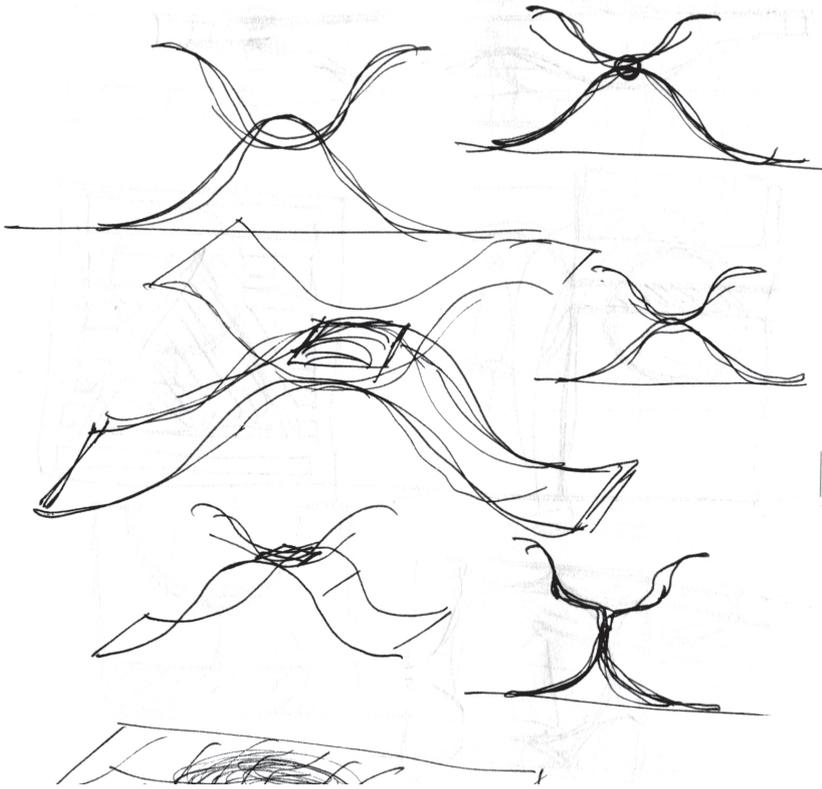
二作目の「Shades of Brunelleschi」では、幾何学形態を重視し、今まであまり座面としては使用されていない半円弧を採用。その座り心地と、それを宙に浮かせることで、更なる特殊な座り心地を試すものであった。

今回の三作目は、複雑な三次曲面から成る立体形状を追求したラウンジチェアとし、ゆったりと座れるものとした。最終的には、大きく三枚の薄いアルミニウム板（厚さ4mm）のパーツから出来ており、構造的には、三枚が互いに支え合うような特殊な構造としている。

作品名は、「Shades of "X"」。

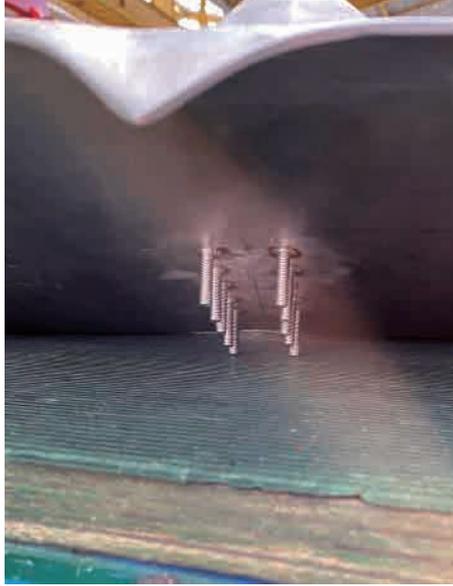
「Shades of～」とは、「～の面影」というような意味をなす。今までの作品は、「Michelangelo（イタリア・ルネサンスの有名な彫刻家であり、建築家のミケランジェロ）」、そして「Brunelleschi（イタリア・ルネサンスの代表的な建築家のブルネレスキ）」を思いながら、制作した。

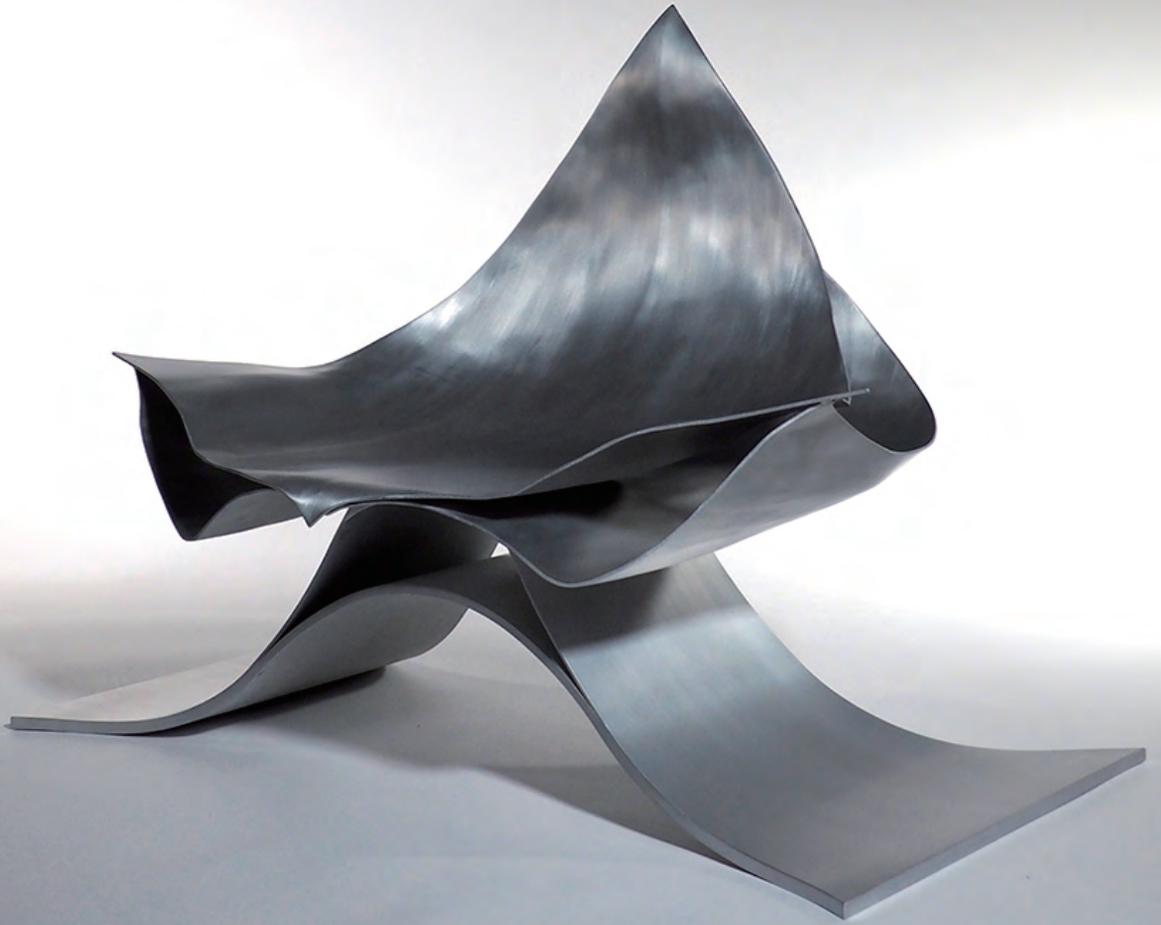
そして今回は、想いを寄せる特定の作家を見出せなかったため、「X」とした。



2019.08.08

























研究テーマ： 椅子の研究

研究期間： 2020年4月1日～2021年3月31日

(作品の大きさ) 幅：1100mm、奥行き：650mm、高さ：800 (座高 320) mm

(素材) アルミニウム板 (4mm 厚、一部 10mm 厚)

(製作) 菊川工業株式会社

(写真) 大松俊紀